

来年度の NPO 事業と県ミュージアム開館へ向けての動き

事務局

県の組織の改変

静岡県の組織改正が実施され、平成 27 年度は、現在の文化・観光部における文化学術局ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課から、文化局文化政策課所管の出先機関ふじのくに地球環境史ミュージアム（以下、「ミュージアム」という。）となります（県立美術館と同格）。

ミュージアムとしての組織は、館長（非常勤）、副館長の下に企画総務課、学芸課の 2 課体制となります。これらの職員は、4 月から新しい研究員を含めて、全員、大谷のミュージアムで仕事をすることとなり、当 NPO とより連絡を取り合って仕事を進めていくこととなります。

今後ミュージアムでは、平成 26 年度内に展示室の設計を終了し、翌年度から整備を開始し、平成 28 年 3 月に一般公開を予定しております。

これらの整備などに、県は平成 27 年度 6 億 1,700 万円の予算を組んでいます。なお、展示室の整備の他に開館に向けて、外構や研究室の整備、屋上への太陽光発電装置の設置などの工事もあります。

NPO の来年度の事業

資料保存事業

今年度と同程度の作業が進められる予定です。登録・評価が 3 万点ほど。昆虫、植物、貝類、魚類など集められた標本の整理、登録が仕事ですが、その中で特に植物標本に関して、台紙に貼って保存整理する、「さく葉標本」作りの人員が不足しています。時間に余裕のある方、興味のある方、ぜひボランティアで協力をお願いしたいと思います。

また、来年度は、膨大な寄贈図書のカテゴリ、登録、整理に関わることが予定されます。この作業に当たっては、司書を雇い、年間 2 万冊の整理を、2 年間続ける必要があります。

資料活用事業

ミュージアムにある資料を使い、県内各所でミニ博物館などの実施を県より受託して、年間 8～9 か所ほど実施していましたが、来年度か



整理中の図書室

らは、ミュージアム開館の宣伝も兼ねて、展示回数を 30 回程度にまで増やし、県内の小中学校へもミニ博物館を拡大していくそうです。県では、そのため来年度はまず、「昆虫の世界」と「化石の世界」についての展示ユニットを作成しています。

それらへの協力のため、当 NPO では人手を増やして、対応することになっています。また、説明員がついて指導する出前講座も実施することになっており、忙しい年度になりそうです。

資料の作成

当 NPO では、ミュージアムとしての資料確保や展示のための資料作りも積極的に実施していくつもりです。現在「駿河ほねほね団」が毎月数回活動して、骨格標本を作製していますが、これ以外にも、鳥や哺乳類の剥製作り、化石のクリーニング、岩石や鉱物の標本作りと、しなければならぬ作業は山積みです。ぜひボランティアとして参加していただければ幸いです。

また県もボランティアを積極的に募集し、育成していく予定です。

平成 28 年の 3 月には、いよいよミュージアムが一般公開することになります。そのため、一般公開に向けての展示室の整備がすすめられていきますが、当 NPO としても自分たちの夢が実現することでもあり、最大限協力し、良い博物館になるよう県と共に努力していきます。